

# IB DP TOK HANDBOOK

SAPPORO KAISEI SECONDARY SCHOOL



この TOK ハンドブックは、下記の生徒に属しています。

生 徒 名

## 目 次

生徒と保護者の方へ	1
TOK のねらい	2
TOK の概要	3
評価について	4
評価目標	5
TOK 展示の評価方法	6
TOK エッセイの評価方法	7

## 生徒と保護者の方へ

「知の理論」(TOK)は、知識の性質と知るプロセスを振り返る機会をもたらします。TOKでは、最低100時間の授業時間を割り当てることが求められており、本校では、5年次に3単位(105時間)、6年次に1単位(35時間)を割り当てています。生徒はこれまでのアカデミックな学習や教室外での生活を通して自分が構築してきた考えについて振り返ります。TOKの主な狙いは生徒が新しい知識を習得することではなく、生徒がすでに知っていることを振り返り、それをより大きな視座の中でとらえられるようになることです。

DPの「コア(TOK、CAS、EE)」の必修要件の1つとして、DPを履修する生徒全員がTOKに取り組みます。DPの「コア」は互いを補完し、ともに作用することで、次の3つの狙いを達成しようとしています。

- ・国際的な視野を育み、責任をもって能動的に社会参加する地球市民になるよう、働きかける。
- ・自己認識とアイデンティティーをはぐくみ、「IBの学習者像」が目指す人物像に近づいているかどうかを振り返る機会をもたらす。
- ・アカデミックな学習と相互に支え合いながら、全体的な学習体験を豊かにし、価値を加える。

## TOK のねらい

TOK のねらいは、以下のとおりです。

- ・ 「私たちはどのようにしてそれを知るのか。」という中心的な問いについて考え、また、この問いを提起することの価値を認識するようになる。
- ・ 曖昧さや不確実性、さらには理にかなった答えが複数存在する問いに触れる。
- ・ この世界を効果的な方法で探り、その意味を理解する力を生徒にもたらすとともに、新奇で複雑な状況に遭遇したときに対応できるだけの備えを身につける。
- ・ 自分自身のものの見方についての認識を高め、自分の信念や前提を批判的に考察するようになる。
- ・ 複数のものの見方に触れ、心を開く姿勢を養い、多様な文化の理解を得られるようになる。
- ・ 学問領域の基本にある概念を探究し、さまざまな AOK で使われる探究の方法に見られる類似点と相違点を特定して、学問領域の間のつながりを見つける。
- ・ 知識の生産、獲得、応用、伝達に関連する価値観、責任、倫理的な配慮の重要性について考える。

## TOK の概要

### 「知識に関する問い」(Knowledge Question)の探究

コースの中心となるのは、「知識に関する問い」の探究です。「知識に関する問い」とは、知識そのものについて疑問を投げかける問いです。「知識に関する問い」は、議論の余地がある問いであり、それに対して理にかなった答えがいくつも存在します。唯一の「正しい」答えが存在しないという点に、やや戸惑いを覚えるかもしれませんが、TOK の学習を進めていくうえで、親近感がもてるようになるでしょう。

また、TOK のカリキュラムは、相互に深くつながった3つの部分で構成されています

◆**コアテーマ-知識と知る人**： このテーマでは、「知る人」(knower) および「考える人」(thinker)としての自分を振り返り、私たちが属する様々な「知る人のコミュニティー」について考えます。

◆**選択テーマ**： 教師と生徒が、「知識と技術」、「知識と言語」、「知識と政治」、「知識と宗教」、「知識と土着の社会」の中から特に興味のあるテーマを2つ選んで、深く考察します。

◆**知識の領域(area of knowledge)**： AOK とはこの知識の分野を指します。AOK が異なれば、知識の性質が異なり、その知識を得るための方法も異なることができます。TOK では、歴史、人間科学、自然科学、数学、芸術という必須の AOK を探究します。

TOKの評価は、TOK 展示と TOK エッセイによって行われます。

#### ◆TOK 展示(内部評価)

この評価課題では、私たちを取り巻く世界に TOK がどのように顕在しているかを深く考察する展示を行います。35個の IA プロンプトのいずれかにつながる3つの事象、またはその画像、およびそれぞれの事象に付随するコメントリーで構成される展示を1つ制作します。

この評価課題は、内部評価の評価要素で、教師が採点し、IB による外部モデレーションを受けます。配点比率は全体の33%を占めます。

#### ◆TOK エッセイ

この評価課題では、当該試験セッションにおいて IB が出題する6つの所定課題のいずれかを選択してエッセイを執筆します。これらの所定課題は「知識に関する問い」の形式で出題され、AOKsに焦点を当てていきます。日本語の場合、TOK エッセイの最大語数は3200字とします。

これは外部評価の評価要素のため、IB の試験官が採点します。採点比率は全体の67%を占めます。



評価目標

TOKを修了した生徒は、以下のことができるようになるでしょう。

- ・ 「知識に関する問い」の批判的な考察を通じて、TOK の考え方を実践する。
- ・ 「知識に関する問い」と私たちを取り巻く世界の間をつながりを見つけ、探究する。
- ・ 「知識に関する問い」とAOK の間をつながりを見つけ、探究する。
- ・ 関連性が高く、明確で、筋の通った議論を構築する。
- ・ 例とエビデンスを効果的に使用して、議論を裏づける。
- ・ さまざまな視点を認識し、それら进行评估する。
- ・ 議論や結論がどのような意味をもつのかを考える。



## TOK展示の評価方法

この展示は、私たちを取り巻く世界に TOK がどのように顕在しているかを示すことに成功しているか。					
非常に優れている 9~10	優れている 7~8	十分なレベル 5~6	基本的 3~4	初歩的 1~2	0
この展示は、3つの事物とそれらがもつ具体的な実社会の文脈を明確に特定している。3つの事物それぞれについて、選択したIAプロンプトとのつながりを明らかにし、よく説明している。それぞれの事物がこの展示にもたらす特別な意義を効果的に正当化している。すべて、またはほぼすべての論点が適切なエビデンスによってしっかりと裏づけられており、かつ選択したIAプロンプトへの明確な言及がなされている。	この展示は、3つの事物とそれらがもつ実社会の文脈を特定している。3つの事物それぞれについて、選択したIAプロンプトとのつながりを説明しているが、その説明がところどころで正確さや明確さを欠いていることがある。それぞれの事物がこの展示にもたらす意義を正当化している。多くの論点が適切なエビデンスで裏づけられており、かつ選択したIAプロンプトへの言及がなされている。	この展示は、3つの事物を特定しているが、それらがもつ実社会の文脈は、曖昧であったり不正確であったりすることがある。3つの事物と選択したIAプロンプトとのつながりをいくらか説明している。それぞれの事物をこの展示に含めた理由をいくらか正当化している。一部の論点がエビデンスで裏づけられており、かつ選択したIAプロンプトへの言及がなされている。	この展示は、3つの事物を特定しているが、それらがもつ実社会の文脈は、暗に示されているだけで、明確には述べられていないことがある。事物と選択したIAプロンプトとの基本的なつながりは示されているが、その説明には説得力がない、または焦点が絞られていない。それぞれの事物をこの展示に含めた理由を正当化しているものの、その説明は表面的なものである。これらの事物を展示に含めた理由は示されているが、適切なエビデンスで支えられていない、または選択したIAプロンプトへの関連性を欠いている。それぞれの事物を展示に含めた理由が、大幅に重複している可能性がある。	この展示は、3つの事物を提示しているが、それらがもつ実社会の文脈は述べられていない、または提示している画像がきわめて一般的な事物のもので、実社会における具体的な事物ではない。事物と選択したIAプロンプトとのつながりは示されているが、そのつながりが最低限もしくは薄弱である、または生徒の言おうとしていることが明確でない。それぞれの事物をこの展示に含めた理由がほとんど正当化されていない。事物についてのコメントは、きわめて記述的な性質のものである、または論拠を伴わない断定にすぎない。	この展示は、他のレベルのいずれの水準にも達していない、または提示されたIAプロンプトを使用していない。
可能性のある特徴					
説得力がある 明晰である 正確である	焦点が絞れている 関連性が高い 筋が通っている	妥当である 要求を満たしている 許容できる	短絡的である 限定的である 議論が十分に発展していない	効果的でない 記述的である 筋が通っていない	

## TOKエッセイの評価方法

この生徒は、明確かつ筋の通った論理で所定課題を批判的に探究しているか					
非常に優れている 9~10	優れている 7~8	十分なレベル 5~6	基本的 3~4	初歩的 1~2	0
所定課題に常に焦点をあてながら議論を進めていて、AOK への関連づけも効果的である。論旨は明確で筋が通っており、具体的な例で効果的に裏づけられている。論旨が含蓄するところを考慮している。さまざまな視点を明確に認識して、評価している。	所定課題に焦点をあてながら議論を進めていて、AOK への関連づけも効果的である。論旨は明確で筋が通っており、例によって裏づけられている。さまざまな視点を認識して、いくらか評価している。	所定課題に焦点をあてながら議論を進めていて、AOK とのつながりもいくらか示している。論旨があり、例によって裏づけられている。さまざまな視点をいくらか認識している。	所定課題に結びつく議論を進めていて、表面的または限定的ではあるが AOK とのつながりを示している。議論はおおむね記述的である。論旨が限定的に示されているが、明確ではなく、例によって裏づけられていない。	所定課題についての議論を進めてはいるが、関連性が薄い。AOK とのつながりはあるかもしれないが、関連性のある点は記述的である、または論拠を伴わない断定にすぎない。	この議論は、他のレベルのいずれの水準にも達していない、または当該試験セッションで出題された所定課題に答えていない。
可能性のある特徴					
洞察力がある 説得力がある 完成度が高い 明晰である	適切である 関連性が高い 分析的である まとまっている	許容できる 主流である 妥当である 要求を満たしている	議論が十分に発展していない 基本的である 表面的である 限定的である	効果的でない 記述的である 筋が通っていない 実体がない	